



糸魚川市医師会の近況

糸魚川市医師会

副会長 安 藤 隆 夫



糸魚川市医師会の近況についてご報告申し上げます。令和7年6月現在、会員数は43名で徐々に減少しかつ高齢化が進んでおります。物故会員は谷守正先生が令和6年11月にご逝去されました（謹んでご冥福をお祈り申し上げます）。医師の減少と高齢化により、すでに当地域の自給自足医療は破綻しており、市外あるいは県外へと患者さんは流出しているのが現状です。この流れを変えることは容易なことではありません。同様の悩みを県内のいくつかの医師会でもお抱えのこととお察し申し上げます。

このような人口構造の変化と医療人材の不足を踏まえて、上越地区でも第8次新潟県保健医療計画に沿って地域医療構想を検討しているところです。新潟労災病院の閉院は令和8年3月31日に決定したものの、中核病院をどのようにするかはいまだ白紙状態です。糸魚川総合病院（以下糸病）の位置づけは、地域の特異性から急性期病院と慢性期病院を統合した特殊な位置づけになる方向で計画が進んでいます。中核病院に三次救急を担当していただき二次救急を糸病で行いますが、救急外来を担当する医師不足が問題になっています。一次救急は週の数回を開業医の有志が糸病に入り担当することで消化することができていましたが、医師不足や働き方改革で担当医が不足する事態が発生し頭を悩ましています。オンライン診療の導入や外部医師確保で事態を改善したいのです

が、医師会や糸病だけでは力不足です。いずれ行政に動いていただき窮地を何とか乗り切りたいと思っています。

在宅医療の推進も第8次新潟県保健医療計画の重要事項です。糸魚川は海岸線が東西に51kmにわたり、主な河川が6カ所あります。それぞれの河川の谷沿いに集落が散在しており、民家は広範囲に及びます。在宅医療が困難な地域といえるこの糸魚川で、開業医の力だけで支えることは難題でした。しかし、8年半前の糸魚川大火の後、糸魚川出身の伊藤俊一郎先生が代表を務める在宅医療専門のアグリグループが参入しご尽力いただいております。アグリグループは市内の私立病院であるよしだ病院の経営を承継し、既存の整形外科のみならず、中断していた内科入院の再開を果たしていただきました。さらに、救急外来の一角を担っていただく予定でしたが、担当の内科医の急逝で話は棚上げになってしまいました。医師会としても残念でなりません。アグリグループの今後の対応に期待を寄せているところです。このように厳しい現状の中、わが糸魚川市医師会は協力し合い診療を行っております。

最後に私見になりますが、政府に一言言わせていただきます。財務省ファーストでなく十分な医療を受けられない国民ファースト、苦勞しても報われない医療関係者ファーストの政策を実現するよう期待しております。